

白老町地域公共交通活性化協議会

平成22年2月26日設置



概要

白老町は、路線バスが十分に居住地域を網羅していないため、交通空白地域が存在している、また、病院や事業者、商店、高校などが送迎バスを運行しなければならない状況であり、町全体として効率的な交通体系となっていない。このため、JR、路線バス、循環バス等の接続を考慮した効率的な運行や利用者ニーズに対応したバス路線・ダイヤの見直し、交通弱者が利用しやすいデマンド型交通の導入など地域活性化を踏まえた公共交通のあり方について、調査検討を実施する。

地域公共交通の現況

- ・JR室蘭本線（社台、白老、萩野、北吉原、竹浦、虎杖浜駅）
- ・道南バス㈱（町内経由2路線、都市間2路線）
- ・循環福祉バス（12路線）
- ・スクールバス（1路線）

地域公共交通の課題

- ・高齢者等交通弱者、交通空白地域の生活交通の確保
- ・循環福祉バスの利便性の確保
- ・民間送迎バス、スクールバス等の有効活用

調査の主な内容

- ・現況交通実態調査
- ・利用者ニーズ把握調査（アンケート調査）
- ・デマンド型交通システムの導入検討
- ・公共交通を核とした産業振興策の検討

策定する地域公共交通総合連携計画の構想（予定）

- ・デマンド型交通の導入
- ・循環福祉バスの路線・ダイヤ再編
- ・民間送迎バス、スクールバス等の有効活用
- ・商店街、民間事業者との連携



国土地理院発行 20万分の1地勢図より

白老町地域公共交通活性化協議会 調査事業の取組状況

協議会開催状況

5回開催

分科会等開催状況

専門部会 : 3回開催

開催状況は平成22年度中のもの(開催予定を含む)

主な調査の実施内容

現況交通実態調査

- ・各種統計資料により人口、世帯数、高齢化率を把握し、コーホート分析などを適用した将来人口・高齢者数を整理 (H22.8月～9月)
- ・循環福祉バス12系統27便全便において利用実態把握を目的とした調査を実施 (H22.10.18～19)
- ・民間企業・病院等が運行する送迎バスの路線・ダイヤのヒアリング調査を実施 (H22.7月～8月)

利用者ニーズ把握調査(アンケート調査)

- ・町内全9,600世帯を対象に、地域交通へのニーズや潜在需要の把握を目的としたアンケート調査を実施 (H22.9月 回収率 約30%)
- その他の調査等
- ・スクールバスの混乗化や間合い利用などによる有効活用の検討を目的とした教育委員会へのヒアリング調査を実施 (H22.12月)

予定している主な連携計画の内容

循環福祉バス「元気号」の見直し(実施主体:白老町、道南バス(株)、実施時期:H23～)

- ・元気号は現在も一般住民の利用が可能であるが、JR及び路線バスとの接続連携や生活交通としての利便性向上を目的としたルート・ダイヤの見直しや、収入額の確保に向けた利用料金の見直しを行うほか、一部地域・区間においてデマンド化等の実証運行を実施

買物循環バスの運行(実施主体:白老町、交通事業者、実施時期:H23～)

- ・アンケート調査などでは元気号の利用目的として、通院と買物が上位を占めることから、元気号のルートやダイヤの見直しにあわせて、買物に特化したバスを実証運行を経て導入

待合施設の設置(実施主体:商業事業者、白老町商工会、着手時期:H23～)

- ・快適なバス待合環境による利便性向上のため、商業施設等と連携し、人が集うことができるコミュニティスペースとしての役割も担うバスの乗り継ぎ拠点や待合スペースの設置を図る

利用促進に向けた取組の実施(実施主体:白老町、白老町商工会、白老町教育委員会、実施時期:H23～)

- ・商業事業者と連携し小売店での割引や購入金額にあわせたバス利用券の発行などによる利用促進の仕組みを構築
- ・町内を運行するバスのルート・ダイヤを分かりやすく表示したバスマップの作成(事業者からの広告費徴収について考慮)配布

自己評価のポイント

利用実態調査、アンケート調査等により必要な調査を行うとともに、法定協議会において教育委員会へのヒアリングも行いながら合意形成を図っている。

二次評価の方向

次に掲げる点についてアドバイスする。
・循環福祉バス「元気号」の一部区間のデマンド化を含む路線再編や買物循環バスの導入等に当たっては、既存の路線バスとの役割分担や町内全体の交通体系のあり方に留意されたい。
・将来的な持続可能性にも配慮した運賃のあり方について検討されたい。